

土質工学会東北支部若手セミナーに参加して

新 田 洋 一

土質工学会東北支部では、支部の地盤調査委員会（委員長：日大工学部 森芳信教授）の活動の一環として、年に1度「若手セミナー」を開催しています。今回は、この若手セミナーについて紹介させていただきます。若手セミナーはこれまで4回開催されてきました。それは、次のとおりです。

第1回：平成元年11月24日（金）、25（土）

東北電気会館（約40名参加）

第2回：平成2年5月11日（金）、12日（土）

日大工学部 郡山研修会館（約60名参加）

第3回：平成3年5月17日（金）、18日（土）

鳴子町中央公民館・荒雄荘（約60名参加）

第4回：平成4年5月15日（金）、16日（土）

つなぎ温泉 ひまわり荘（約70名参加）

参加者は、その名のとおり、全員が若手（自称も含め）技術者です。所属は、地質、土質調査、設計、建設業、大学、官公庁と幅広く、回を重ねるごとに参加者が増えてきています。初回から皆勤で参加している万年若手技術者も少なくありません。

セミナーの内容は、初日に講演会、2日目が研究発表会、その間の夜間が懇親会及び懇談会と言うのが基本パターンです。講演会は、最新の技術情報に関するものとして、例えば、過去には、

『アンカー工法と新素材の開発』

『シールド工法に関する技術開発・最近の話題』

と題し、今年度は、

『コンピューターネットワークの土質実験室への導入』

等が提供されました。

講習会の後は、温泉につかりさっぱりしたところで、懇親会へと移ります。講習会では、硬い顔つきで参加していた人も、酒を口にする懇親会となれば、話の内容は、もちろん技

術的にするどいものもありますが、日頃の現場の苦勞話、それぞれの趣味を中心とした話、家族内に立ち入った話などなど、わきあいあいとしたものとなります。その後は二次会的に懇談会へ移ります。懇談会は、どこそこの部屋にわいわいと集まり、敷いてある布団をはねのけて、ほぼ朝まで懇談し合うものです。

この頃になるとアルコールパワーは全開になり、話の中身は真剣さを増してきます。今年の懇談会は、あまりに真剣になりすぎて夜中に宿舍の電灯が消されてしまいました。と言うとうるさい団体客へのおしおきの様に聞こえますが、実はつなぎ温泉周辺が停電になってしまったのです。ここに大事件がおきました。一人の参加者が風呂の帰りにエレベーターに閉じ込められてしまいました。復電までの約1時間は、エレベーターへ向かって「おいだいじょうぶか」「がんばれよ」「なくなよ」の聲がかかり続け、無事救出されたとき、本人はまったくケロリとしていました。

二日目の研究討論会は、通常の研究発表会とは目的が異なり、「こんな現場でこんな苦勞をしました。こんな方法で何とかやりましたが、もっとうまい方法はなかったでしょうか?」といった内容のものを主としています。発表時間は1編40分くらいあり、発表も質疑もかなり余裕がもて、突っ込んだ討論ができます。例えば今年の発表では、

「仙石線地下化仙台駅アンダーピニング計画」

「構造物を造る立場から感じること」

「圧縮型アンカーの付着分布測定の一例」

「新しい調査技術の紹介」

などである。

今年は二日目の午後に新しい試みとして、

「土質定数の設定について」

というテーマでパネルディスカッションを行いました。パネラーは、発注者（建設省）、土質調査屋、設計コンサル、ゼネコンの各代表で、座長として入戸工業大学の飛田喜雄先生により進められました。テーマは、日頃、土質調査に携わっている若手技術者にとって、調査・試験データから土質定数を設定する時にいつも悩んでいること、問題に感じていることであり、真剣な討論がなされました。さらに発注者側や調査・試験データを利用する側の設計コンサル・ゼネコン等からも興味深い話が沢山出て、会場は大変熱のこもったものとなりました。ディスカッションは、熱が入りすぎ閉会の時間となってもまとまることができず、後日新ためて討論会を開くこととなりました。（予定では11月20日（金）ろうふ

く会館)

以上、土質工学会若手セミナーについて紹介させていただきました。平成5年も5月ごろに開催を予定しています。代表幹事は中央開発の佐藤真吾氏に決定しています。皆さんの参加をお待ちしています。最後に今年のセミナーに初めて参加した人の感想を紹介します。

- A：これからいろんなことを勉強して行かなければならないと再認識した。
- B：調査・設計の率直な意見がきけてよかった。
- C：それぞれ所属している所によってそれぞれの考えがあり、自分ではあたりまえと
思っている相手にとってはそうじゃないということがわかった。
- D：構造物下部工の設計を担当しているが、土質的なことはとても大事だと感じた。
- E：地質調査等の発注を主な仕事としているが、調査の目的によって必要となる調査
・試験等はどしどし言ってほしい。
- F：土はよくわからないが、民・官優和型の学会があるということを知って自分では
よかった。土質に対して興味を持った。
- G：ちょっと飲みすぎて風呂に言った帰りに、エレベーターに1時間ほどとじこめられ、
外ではかなり大げさなことになっていておどろいた。

(基礎地盤コンサルタンツ㈱、第4回若手セミナー代表幹事)

